

平成26年3月7日、市長と政策秘書課職員との話について紹介します。

自己肯定感

3月6日、市内3つの中学校で卒業式が行われ、493名の卒業生が母校を巣立っていきました。

私は、北中学校の卒業式に出席し、校長先生が生徒一人ひとりに卒業証書を手渡す場面を拝見させていただきました。



卒業証書を受け取る際、大きな声で「ありがとうございました」と言う生徒、小さな声でお礼を言う生徒などさまざまで、思春期真っ只中の年頃らしい姿を微笑ましく見ていました。その中で、一人の女子生徒が、卒業証書を受け取った際に、ニッコリと笑顔を校長先生に返していたのが非常に印象的でした。きっと彼女は、充実した中学生生活を送ったのでしょう。

ある講演会で、今の子どもをめぐる問題の原因は、「自己肯定感の低さである」という話を聞きました。子どもだけでなく、その母親さえも「自分は誰からも必要とされていない」と感じているというのです。

講演会を聞いた後、市内中学校で生徒達と話す機会があり、「自分は人から必要とされていると思いますか？」と尋ねたところ、「必要とされていると感じる」と答えた生徒は3分の1程度でした。そこで、「勉強も大切ですが、人と話をするときは、相手の目を見て、笑顔で接しましょう。親や先生、友達には、正面から向き合いましょう」という話をさせてもらいました。そして「家族に話しかけられたら、ニッコリしてごらん。君たちがニッコリするだけでお母さんやお父さんはうれしくなる」とも話しました。

笑顔で相手に接し、目を見て話をする。些細なことにでも「ありがとう」と感謝の気持ちを伝える。たったそれだけのことが、「私は必要とされている」という自己肯定感を育む一歩になるのです。

まちづくり まずは笑顔で こんにちは

私は、就任当初から、「笑顔で仕事ができる職場づくりを心掛けてほしい」と職員に呼びかけています。職員同士はもちろん、市役所にお越しになる市民のみなさんに対しても、まずは相手の目を見て、笑顔であいさつするよう話をしています。実は、「相手の目を見て、笑顔であいさつ。言葉遣い。相手の話をよく聞く」は、認知症の方への対応方法でもあります。まず、「笑顔であいさつ」が、福祉の第一歩です。

4月から新しい環境での生活が始まる方もいらっしゃるでしょう。地域でも職場でも、まずは「笑顔であいさつ」を心がけてみてはいかがでしょうか。

「笑顔であいさつ」 簡単なはずですが、できていない人が多いと感じます。市役所からその輪が広がるよう、あきらめず言い続け、私自身、続けていきたいと思っています。

～市長の話を聞いて～

4月になると、私たちの職場にも新人職員が入ってきます。恐らく、不安でいっぱいでしょう。毎朝の「おはようございます」の一言から、少しでも新人職員の不安を取り除けるようにしたいと思います。